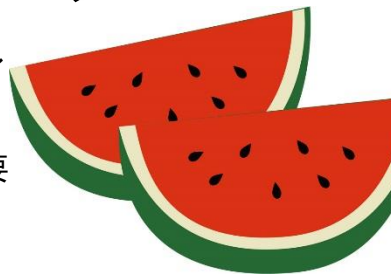




# 九州歯科大学 図書館だより NO.86

夏休みをいかがお過ごしですか。まだまだ暑いですね。こんな時には涼しくて静かな環境で自分を見つめ直す時間にしてほしいと思います。よい本をたくさん読んで心の充電をしてください。私たち運営部会委員は学生目線で使いやすい図書館づくりを目指していますので、気になることや要望等ありましたら遠慮せずに声をかけてください。

図書館運営部会 古株 彰一郎



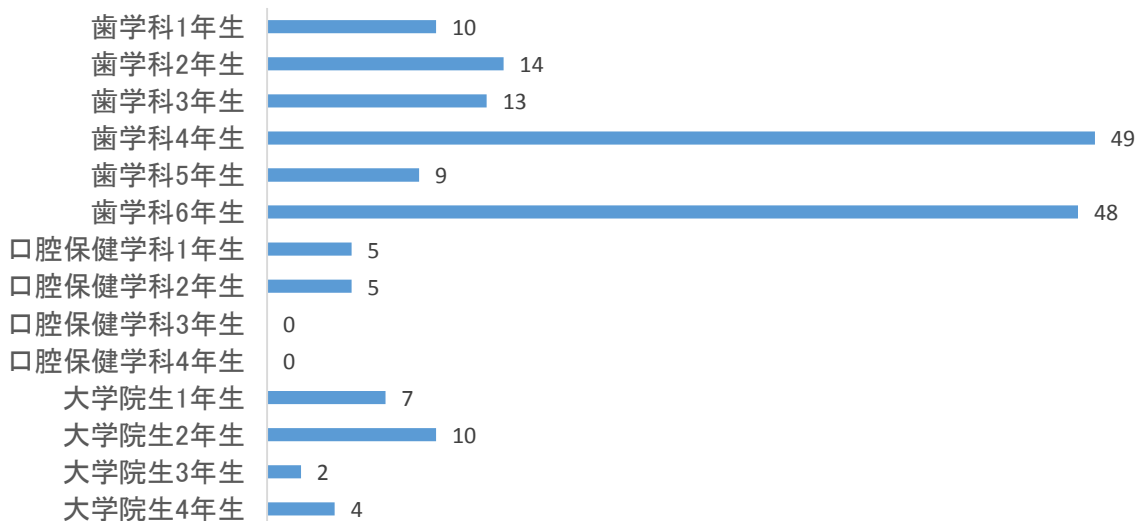
## 貸出ランキング

2017.7

- 1位 無歯顎補綴治療学 第2版, 細井紀雄 [ほか] 編集
- 2位 口腔外科学総論・麻酔学 2016 (歯科医師国家試験過去問題集: 実践:12), 麻布デンタルアカデミー編
- 3位 解剖実習の手びき 第8版, 寺田春水, 藤田恒夫著
- 4位 循環器 第3版 (病気がみえる:v. 2), 医療情報科学研究所編
- 5位 歯科放射線学 2014 (歯科医師国家試験過去問題集: 実践:15), 麻布デンタルアカデミー編
- 6位 解剖実習の手びき 11版, 寺田春水, 藤田恒夫著
- 7位 歯学生のパーシャルデンチャー 第5版, 三谷春保, 小林義典, 赤川安正編集
- 8位 歯科麻酔学 第6版, 古屋英毅 [ほか] 編集
- 9位 歯学生のための歯科矯正学, 山内和夫, 作田守編集/河田照茂[ほか]執筆
- 10位 解剖実習の手びき 第10版, 寺田春水, 藤田恒夫著



## 貸出冊数(7月)



# 第6回選書ツアー紹介本

## 『月は無慈悲な夜の女王』

ロバート・A・ハインライン著 矢野徹訳

機械技師の主人公が、自分の整備する月政府の中央管理コンピュータに意識があることに気付き、それと共謀して月に圧政を強いている地球政府に革命を起こすという話です。今でこそコンピュータが棋士と対戦したりして人工知能が話題になっていますが、この小説が書かれたのは1960年代で人工知能はおろかコンピュータも電卓レベルの計算機が精一杯の時代だったそうです。それだけでなく都市機能が機械同士の接続によって処理されている所など、今でいうインターネットに近く、著者の想像力に驚かされます。

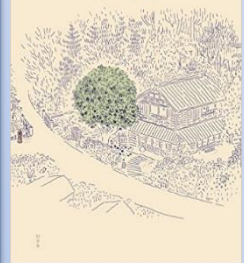
月面都市は有機物を得るため、採掘される資源も地球政府に安く買い叩かれてしまいます。生きるため必要な空気の生産さえ心配しなければいけない状況の中、どのように革命を成功させるのか。主人公マニエルの考える方法や、コンピュータのマイクが繰り出す作戦がとともユニークで面白いです。

主人公マニエルは革命の首謀者ともいえる存在ですが、運動自体に特別感情的でなく、目的のため冷静に革命の準備を進めていきます。そのため戦争へ向かう情勢が淡々と書かれていて、人々が大きな変化に対してどう反応していくのかというのを大きな視点から見ている作品でもあると思います。



## ツバキ文具店

小川糸



## 『ツバキ文具店』 小川 糸

物語の舞台は鎌倉。随所に鎌倉の町並みが出てくる。その鎌倉で、祖母にあたる「先代」から引き継いだ小さな「ツバキ文具店」を営む鳩子。通称ポッポちゃん。文具店という看板ではあるものの、実際には「代書屋」が本業のような状態である。代書といっても、普通の宛名書きではなく、依頼人の状況に合わせた(手紙の)中身の代筆までするのである。しかも下書きを渡されて清書する程度ではなく、その依頼人の気持ちになって最初から中身を書くのである。代書を依頼する人は、性別も年齢も事情も様々。主人公のポッポちゃんは、その人・その事情に合わせて文具や紙などを使い分け、字体も変えて、まるでその人物になりきって代筆を行う。男性の依頼であれば、男性らしい文具(太字の万年筆)で男性らしい文体で、今は亡き人物の代筆を頼まれたときは、まるでその人に憑依されたかのように喫茶店の注文用裏紙にほとぼしる感情をしたためたり。

本には、ポッポちゃんが代書した実際の手紙が掲載されていて、確かにまったく違う人が書いたような字体の変え方にはびっくりする。切手まで絵柄を選ぶのだから、鳩子の考える代書屋という仕事の奥深さに恐れ入ってしまう。

また、依頼人とポッポちゃんの物語と並行して、祖母である「先代」とポッポちゃんの物語も進んでいく。母代わりとして自分を厳しく育ててくれた祖母と、とうとう分かり合えることが出来ずじまいだったのだが、様々な内容の代書と向き合ううちに、先代の愛情や思いを知ることになるのである。厳しく育てることでしか愛情表現ができなかったのだと、祖母が真剣に自分を思ってくれていたことを知り、心のしこりが徐々にほぐれていく。そして、祖母との関係を見つめなおすことで、ポッポちゃんは「自分の字」というものを手に入れていく。

手紙の持つ力、文字の奥深さと味わい、人と人とのつながり、ポッポちゃんを取り巻くやさしい人々と静かでゆるやかな鎌倉の季節の移り変わりに、じんわりと心が温かくなる。ご近所さんもみんな個性的で、優しくのんびりほんわかした人ばかり。代書の依頼は風変わりな過激なものばかりだけれど、ポッポちゃんの日常はゆるやかで穏やかに流れていく。その対比も面白い。

手元に置いて何度も読み返したくなる物語である。